

## まちづくりの取組を支える共通基盤

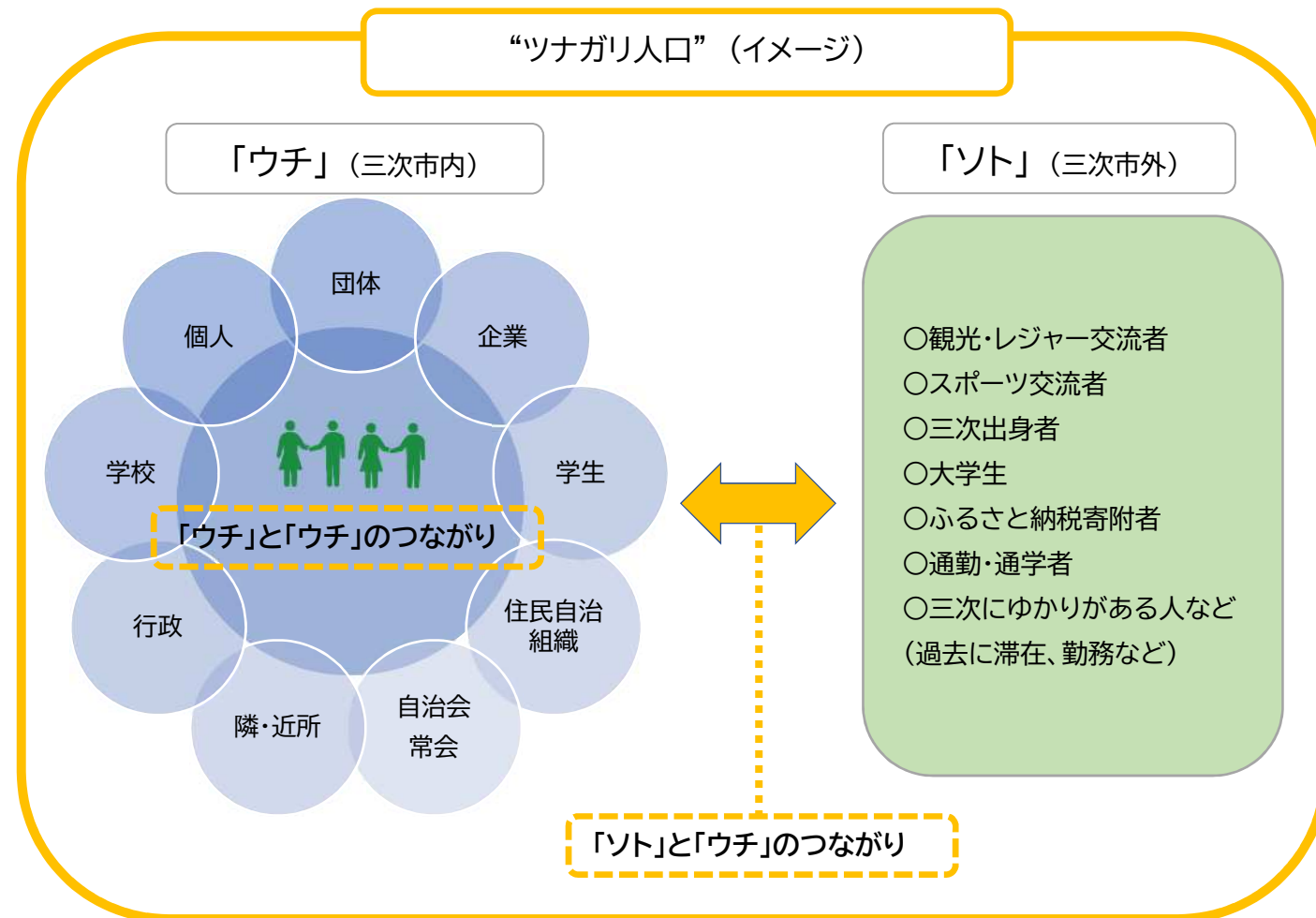
第3次三次市総合計画では、全施策にまたがる5つの「共通基盤」を持ち取組を進めていきます。新たな施策に取り組む際や、既存の施策を改善する際も、この考えに基づく対応を取り入れます。

### 1 つながりによる協働・共創の推進

- 将来にわたって人口減少が続くことが確実視される中、定住人口に目を向けるだけでは、地域の活力を維持することは困難な時代を迎えている。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、様々な分野でデジタル技術の活用が進み、仕事に対する価値観や意識の変化、多様なライフスタイルが注目されている。

こうした状況を踏まえ、コロナ禍からの回復、再始動を進め、本市の特徴である「中国地方の中央」に位置し「2本の高速道路の結節点」である地理的特性、昼間人口が常住人口よりも多いという特徴をしっかりと活かしながら、定住人口や交流人口を含め、「ソト」と「ウチ」でのつながりや、「ウチ」と「ウチ」でつながる“ツナガリ人口”を拡大していくことで、三次の活力と賑わいを創出し、持続可能なまちづくりへつなげていく。

多様なつながりの創出による“ツナガリ人口”の拡大  
三次の活力と賑わいの創出 → 持続可能なまちづくり



- 市民や行政、各種団体、事業者等が連携し、それぞれの役割のもと協働して各種施策に取り組んでいくとともに、“ツナガリ人口”の拡大により、つながった人がまちづくりに積極的に関わるしくみづくりを進める。
- 三次の未来を拓く取組を後押しするため、ヒト・モノ・コト・情報を効果的に結び付け、三次の新たな魅力や付加価値の創出につなげる「共創」に取り組む。

### 2 情報発信・シティプロモーションの推進

- まちづくりの課題や目的を市民と共有できるよう、情報発信を積極的に行う。
- 三次市の魅力を発掘・創出するとともに、様々なネットワークの構築によりつながりを広げながら、市内外に効果的に訴求することで、市民が「三次市に暮らして良かった」と感じられるシティプロモーションを推進する。また、地域づくりに関わる“ツナガリ人口”の拡大につなげていく。

### 3 デジタル・トランスフォーメーション (DX) の推進

- デジタル技術の活用により、まち全体が継続的に発展するしくみづくりを進めるとともに、本市が抱えている社会的課題を解決し、市民の「くらし」と「しごと」を便利で豊かにする各種施策に取り組んでいく。
- 誰一人取り残されることなく、全ての市民がデジタル化のメリットを享受できる社会の実現に向けた取組を推進する。

### 4 広域連携の推進

- 本市の拠点性を活かしつつ、広島広域都市圏など事業の広域化を進め、役割分担やスケールメリットなど市域を超えた広域連携の取組を進める。

### 5 行財政改革の推進

社会経済潮流をふまえた市民の多様なニーズに的確に対応したサービスを提供するとともに、限られた資源を効果的に活用し、持続可能なまちづくりの実現に向けた自治体運営を展開する。

- 市民の力を活かし活力を生み出すために、市民との対話を徹底し、市民協働のまちづくりをさらに推進する。
- 事業の意義と成果を厳しく評価し、未来のために真に行政が担うべき事業を選択して、効果的・効率的に実行する。
- 様々な社会環境の変化に対し的確かつ迅速に対応できる、決断力のあるスリムでネットワークの良い効率的な行政組織づくりを進めるとともに、健全で安定的な財政運営を実現する。また、新たな政策課題に的確かつ効果的に取り組んでいけるよう、職員の課題認識・解決力を強化する。

#### 【基本目標】

三次市の未来を市民と拓く、共感力と変革力ある行政をめざして  
～市民に身近な信頼される行政を実現し、市民と共に未来のための変革を生み出します～